

新見公立大学・短期大学公開講座の現状と課題

吉村 淳子¹⁾*・金山 時恵²⁾・三好 年江³⁾

(2011年11月22日受理)

公開講座を再開し3年が経過した。現在までに開講した講座内容を振り返るとともに受講生へのアンケート調査から、公開講座の現状と課題を明らかにした。公開講座の受講生は徐々に増加しており、受講生が定着しつつある。これは、本学の公開講座の認知度が上がってきていると考えられる。しかし、今後さらに幅広い市民が受講できるよう、開催日時等の検討も必要である。講座内容については、受講生からのさまざまな意見や要望があり、大学としての専門性を生かしたアカデミックな講座を開講することが課題であるとする。

はじめに

本学は、1980年（昭和55年）に公立の旧阿新広域事務組合立新見女子短期大学として開学して以来、大学教員の教育研究成果を地域に還元することを重要な役割と考えて、生涯学習機会の提供に積極的に取り組んできた。その一環として1981年（昭和56年）より公開講座を開講し、その後1992年（平成4年）からは岡山県の委託である岡山長寿学園を受け入れ、さらに1996年（平成9年）からはおかやま長寿学園が発展的に統合され、新たに岡山県生涯学習大学となって開設されたものを、引き続き積極的に受け入れ今日まで実施してきた。

しかし、受講生の減少と教員の負担感等の理由により2005年から2008年の4年間、公開講座は一時閉講され、その間は岡山県主催の生涯学習大学のみ開講してきた経緯がある。

しかし、岡山県主催の生涯学習大学だけでは、地域に根差した大学の役割としては不十分であると考えるとともに受講生からのニーズもあり、2009年から公開講座を再開させた。このことは、さらなる学習の場を地域に提供する機会として、また、大学の教育研究成果の還元の間として、大学にとって必要なことであるとする。

本学開学以来実施してきた公開講座であるが、内容等について検証されたことは一度もない。そこで今回は、2009年からの3年間講座内容と受講生に対するアンケート結果をもとに、今後の課題を明らかにし、公開講座のあり方を検討することにした。

I. 研究目的

2009年6月から2011年6月に実施した過去3年間の公開

講座の実施状況と講座受講生の評価を検証することにより、これからの公開講座のあり方についての検討を行う。

II. 研究方法

- 1) 調査対象：2009年6月から2011年6月までの3年間の公開講座受講生134名（回収率49%）。
- 2) 調査方法：公開講座終了後に行ったアンケート結果を集計し分析した。

III. 公開講座の運営方法

公開講座のテーマおよび講師の決定・依頼など、企画・運営・広報に関しては新見公立大学・新見公立短期大学の地域支援活動委員会が協議し行っている。2009年は6月と10月に各2講座、2010年および2011年は6月に各4講座を開講した。過去3年間の講座内容を表1に示した。

IV. 結果

2009年度から2011年度前期における公開講座の参加者は、延べ134名であった。総数では、2009年度は52名、2010年度は33名、2011年度は49名だった。そのうち、性別にみた参加者は図1に示すように、いずれも女性の参加が多かった。

また、2009年度の平均年齢は65.40±17.2歳、2010年度の平均年齢は73.72±7.0歳、2011年度の平均年齢は69.98±8.0歳であった。参加者全体の平均年齢は68.98±12.4歳であった。

次に、公開講座の周知方法では、図2に示すように、地元新聞の備北民報などのメディアを通しての周知がもっと

*連絡先：吉村淳子 新見公立短期大学 幼児教育学科 718-8585 新見市西方1263-2

1) 幼児教育学科 2) 地域看護学専攻科 3) 幼児教育学科

表1 公開講座一覧

平成21年度新見公立大学・短期大学公開講座	6月12日(金)	腎臓と生物学	看護教授
	6月26日(金)	老化と癌	学長
	10月16日(金)	戦国時代の三傑と先祖の関係	旧新見藩第13代末裔
	10月23日(金)	新見市哲西町の四王寺と玄賓伝説	看護教授
平成22年度新見公立大学・短期大学公開講座	6月4日(金)	外国人の増加と多文化共生～ブラジル人集住地の現実を中心に～	幼児教育講師
	6月11日(金)	畝で拓いた農の途～新見・阿哲地域における戦後開拓の展開～	地域福祉講師
	6月18日(金)	新見藩について	郷土史家
	6月25日(金)	新見市後醍醐天皇伝説	看護教授
平成23年度新見公立大学・短期大学公開講座	6月3日(金)	いきいき在宅介護～介護は“私”の問題～	地域福祉助教
	6月10日(金)	丸川松隠と山田方谷との関係について	山田方谷館館長
	6月17日(金)	健康心理学でストレスや病気に強くなる	幼児教育講師
	6月24日(金)	ウイルスによる病気のはなし	看護教授

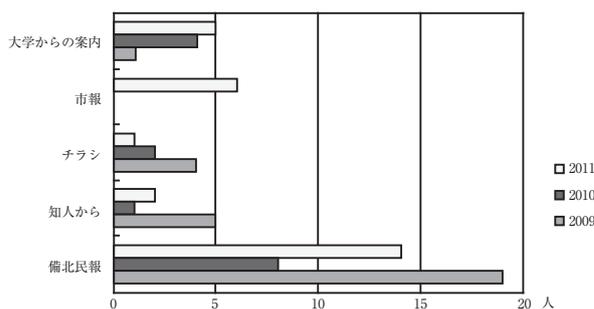


図2 周知方法

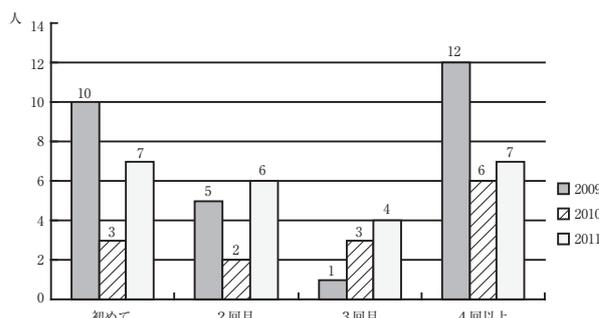


図3 受講回数の推移

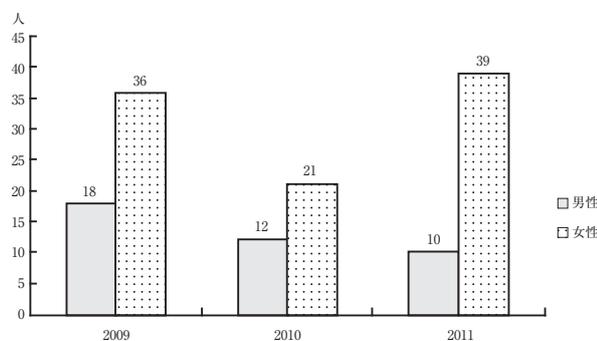


図1 性別でみた参加者の推移

も多かった。また、大学からの案内もみられ、毎年参加されている方への案内は今後も継続していくことは必要といえる。

次に、参加者の受講回数では、図3に示すように「4回以上」がもっとも多く、いわゆる常連の参加者であった。これは、受講生が定着してきているととらえることができる。また、「初めて」の方も参加者総数でみると2009年度では10名(19.2%)、2010年度では3名(9.1%)、2011年度では7名(14.3%)を占めており、年度を追うごとに徐々に増加傾向にあるといえる。大学の公開講座は、地域に開か

れた大学としての使命を担うことが求められるため、固定受講生の興味関心にも応えながら、地域住民が広く参加できる講座内容と周知方法について検討をしていく必要がある。

また、講座の内容の専門領域は、2009年度は、歴史、医療・看護・健康に関するものであった。次に2010年度は、公開講座は歴史に関するものであった。さらに、2011年度は、歴史、介護、医療・看護・健康、心理に関する内容であった。

「今後希望する講座」では、図4に示すように「歴史」がもっとも多く、次いで「医療・看護・健康」、「文学」の順であった。その他としては、発達障害、哲学、医学の基礎等の希望であった。

このように歴史ある新見市の地域の特性に応じた郷土史や文学に関する興味・関心の高さが伺えた。また、健康に関することは、地域住民の生活において身近なテーマであることが伺える。一方、介護に関することは年々希望が少なくなっている。これは、地域住民の介護の意識などは他の行政的な取り組みや広報活動などから情報を得る機会が増えたため、改めて本講座で希望するものとして挙げられなくなったのではないかと考える。

また、心理に関することの希望は高いが、心理の講座として地域住民が何を求めているのかを十分に吟味していく必要がある。今後は、これまではあまり開講されていなかった「音楽」「環境・自然科学」などの講座についての希望も高いため、開講講座を十分に検討しながら、地域住民の要望に応えられる講座を開講していく必要がある。

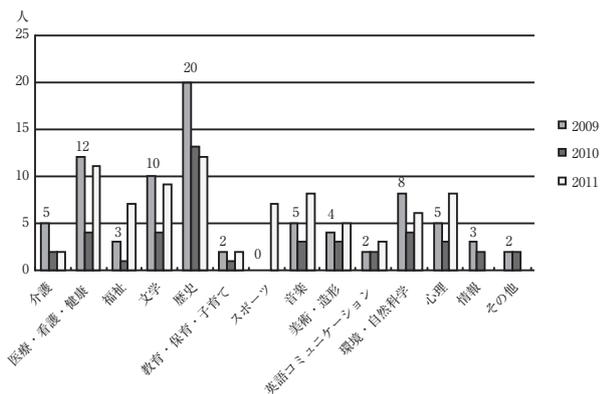


図4 希望する開講講座

3年間の公開講座終了時に記載していただいた自由記述の一部を表2、表3、表4にまとめた。記載内容から、3つのカテゴリーにまとめることができた。

講座を受けることで、多くの受講生が満足感や充実感を得ており、日々の生活における意欲の向上がみられるなど、公開講座の意義を確認することができた。さらに、受講生の要望や意見はこれからの公開講座を考えていくうえでの貴重な意見として参考にしていきたい。

V. まとめ

以上のことから、これからの公開講座のあり方について、専門的な講座の要望や、分かりやすさや身近なことを知りたいという要望など様々な視点からの意見を参考とし、充実した内容を提供できるよう努力する必要がある。

大学の公開講座に期待される役割として、大学教員が一般社会の方に、アカデミックなことを教える機会をもつことにより、学生に教えるのとは異なる視点をもつことが可能になり、刺激を受けることができる。その結果、教員の研究にもフィードバックされ、研究にも刺激を還元できる。そして、その結果がまた社会に出て行くことで、好循環が生まれ、教育、研究、社会貢献の3つの機能が上手く循環することになるのではないかと考える。

さらに、公開講座の受講により、地域の方に、大学にはどのような専門の教員がいるのかを知ってもらえる機会になり、それは大学の認知度の向上にもつながると考える。また公開講座を受講したことで、受講して良かったと思う人が増えることは、大学の良き理解者が増えることであり、大学に対して親しみを感じてもらえることになるのではないだろうか。

このように、公開講座の開講は、地域においても大学においても、さまざまな効果が期待される重要な活動であるといえる。

今後の公開講座については、以下の4点について検討しながら実施していく必要があると考える。

1. 講座の開講回数については、岡山県主催の生涯学習大学が開講されない年は大学の公開講座を年2回開催し、広く学習の機会を提供する。

表2 1. 受講したことによる満足感・充実感

過去の人物・出来事を今の時代になって知ることができるのは興味深く素晴らしいことだと思います。
備中国に足跡を残してくださった玄奘僧侶のことを生き生きと語ってくださって、楽しい時間でした。
今まで育ってきた町のことだったので興味を持って講演を聞くことができました。
新見もすごい人がいたんだなと思いました。頑張っているという話や残っている資料をみて感じました。
身近な新見の歴史に関心を持ってとても面白かった。全体的には私には内容が少し難しかった。
大変有意義と思います。退職してからは唯一の楽しみでした。
知らなかった世界に触れたように思います。またの機会があれば受講したいと思います。
地元の貴重な資料を読み解き興味を与えてくれました。文化を減ばさないことの大切さも知ることができた。
楽しく久しぶりに勉強の時間を持つことができたので今日はとてもうれしい1日となりました。
初めての受講でした。大変良かったと思っています。
年を重ねても生きることの美しさを数々知りとても楽しくできました。
お話を聞いてこれから先の日々に役立てていきたいと思っています。自分を成長させる気を起こす講座で良かったです。
新見市に伝わる歴史・文化等身近なお話を聞かせていただいて大変興味深く面白く受講させていただきました。
新見に住んでいても知らないことばかりで歴史を知ることがとても楽しいことです。
講座の内容がよく興味を持って聞くことができました。
初めて受講しましたが、とても聞きやすく脳の活性に大変良かったと思います。時間的に楽で少し若くなった気がいたします。
興味のある講座ばかりでしたので参考になることも多く大変良かったと思います。
専門的な勉強のような気がしましたが、学生気分を感じとても良かったです。
長年疑問に思っていたウイルスの話は非常に勉強になりました。
講座数が去年の2分の1になりましたが、それだけ気軽に1日のスケジュールの負担にならずに参加できました。4回分のテーマがそれぞれ違うのでそれはそれで変化がよかったと思います。
短大のプロフェッショナルな先生方の研究分野を市民にわかりやすくお話下さり大変うれしいです。

表3 2. 日々の生活における意欲の向上

玄奘にまつわる寺に行ってみたいと思いました。
文化財に対する気持ちも少し変わりました。
ひとつのことに取組む姿勢を今後とも学びさらに成長したいと思っています。
高齢者といえども最近の若い方のお話を聞く機会を多く持ちたいと思っています。
調理実習、早速家庭で数回行いました。スポーツも家庭で取り入れています。
自分で少しでも実施する。また人々に話す。アドバイスする。
死に至る自分たちの老後を少し考えることができました。
伝承についてこれからも学びたいと思いました。
新見のことを調べてみたいと学習意欲を喚起させられました。

表 4 3. 公開講座への意見・要望

4回なら4回分の講座内容にまとまりがなく大変不満。
当方の知識不足のため、もっと具体的な内容がほしかった。
地域・学校など特徴のあるものを希望します。歴史、名所・旧跡、風俗・習慣などの知識・知恵をいただきたい。
もう少し専門性のある具体的な内容の講義を要望したい。
講座回数をもっと多くしてほしい。年間を通して月2回ぐらいを希望します。
13時を13時30分からにしてほしい。
ろう者の方々の実情をもっと知りたい。
もう少しゆっくり話していただければ幸いです。

2. 講座の内容に関しては、開講する講座の分野について本学教員の専門性を生かし独自性をもったものにし、市民のニーズに答えられるよう努力する。

3. 大学の公開講座としての専門的内容が求められており、アカデミックな内容の講座を開講していく必要がある。
4. 固定受講者を維持しながら、さらにより多くの受講者が参加できるよう、講座内容および開催曜日や開催時間の検討をしていく必要がある。

追記

本報告に関する検討については、地域支援活動委員会(委員長・吉村淳子、委員・金山時恵、松本百合美、池田明子、三好年江、掛屋純子、中山亜弓)が行った。その中で本紀要に投稿する際には吉村淳子(はじめに、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴを担当)金山時恵・三好年江(Ⅳを担当)の3名が執筆した。